

# 「再解釈、ポーランドの現代ポスター芸術」展

フィルフォヴァ ネダ

## 1.はじめに

10月22日から30日にかけて、名古屋市立大芸術工学部のギャラリー・オブ・スクールにて「再解釈、ポーランドの現代ポスター芸術」という展覧会が開催された。この展覧会は、2022年に日本でポーランドのグラフィックデザインをプロモーションするPOLISH GRAPHIC DESIGN NOWという大規模なプロジェクトの一部であった。本展覧会とプロジェクトは、環境デザイン研究所、ポーランド共和国文化・国家遺産省、およびポーランド広報文化センター支援によって支援されていた。

開催日：2022年10月22日～30日

開催場所：名古屋市立大芸術工学部内  
ギャラリー・オブ・スクール

活動形式：展覧会

展示作品：JIS B1サイズで印刷された19枚のポスター

キュレーター：レネ・ヴァヴジキェヴィチ、アレクサン  
ドラ・ウブカタ、ネダ・フィルフォヴァ

展示されたポスターのデザイナー：カロール・バナッハ (Karol Banach)、ベアタ・シリビンスカ=バラクズ (Beata Sliwinska Barrakuz)、パトリク・ハルジェイ (Patryk Hardziej)、ホームワーク！ヨアン・ナグルスカ、イエジ・スカクン (Homework: Joanna Górska, Jerzy Skakun)、クシシュトフ・イヴァンスキ (Krzysztof Iwanski)、オラ・ヤショノブスカ (Ola Jasionowska)、ヤクブ・イエジエルスキ (Jakub Jezierski)、パベウ・ヨニツァ (Paweł Jonca)、ヤクブ・カミンスキ (Jakub Kaminski)、バルトシュ・コソブスキ (Bartosz Kosowski)、オラ・ニェプスイ (Ola Niepsuj)、プラキヤト (Plakiat)、アリナ・リバツカ (Alina Rybacka)、ダビド・リスキ (Dawid Ryski)、ヴィクトル・ソマ (Victor Soma)、アレクサンデル・ワリエブスキ (Aleksander Walijewski)、アダ・ゼエリンスカ (Ada Zielinska)

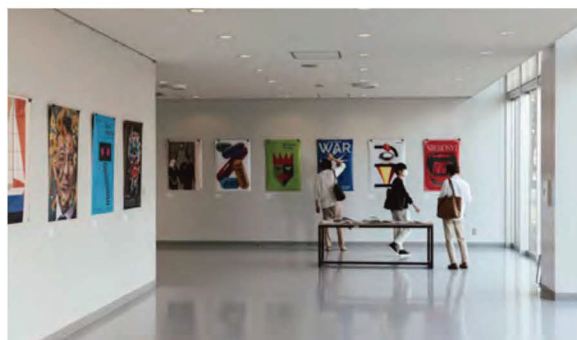


図-1 「再解釈、ポーランドの現代ポスター芸術」展  
写真：パトリック・ヴィシニェフスキ

## 2.展覧会のコンセプトとコンテキスト

POLISH GRAPHIC DESIGN NOWから最初に連絡を受けたのは、彼らが日本で2022年の一連のイベントを計画していたその年の初めごろだった。その時の提案は、名古屋市立大学芸術工学部を含む、日本のいくつかのデザイン大学とのコラボレーションで構成されていた。当初、このコラボレーションは、クリストフ・イワンスキーというグラフィックデザイナーによるワークショップを開催するという計画であったが、話し合いの結果、ワークショップでのポスター作成のコンテキストは、現在のポーランドのグラフィックデザイン文化の言説によって裏付けされる必要があると判断した(図-1)。展覧会のコンセプトおよび実際の準備は、2022年7月から9月にかけて行われた。

ポーランドのグラフィックデザインは、1950年代から80年代にかけての「POLISH SCHOOL OF POSTERS」として世界的に知られるようになり、ヘンリク・トマシェフスキ (Henryk Tomaszewski)、ヤン・ムウォドジェニエツ (Jan Młodożeniec)、ヤン・レニツァ (Jan Lenica)、ワルデマル・シフエジ (Waldemar Świerzy) などの名前は、グラフィックデザインの国際的な遺産として広く知られている。「POLISH SCHOOL OF POSTERS」とは、実際の学校ではなく、思想運動でも

ない。この名前は第二次世界大戦後のポーランドのポスターデザインの展開を定義するために使用され、当時の社会主義政府によって直接管理されていた。デザイナーは最大限の表現の自由を持ちポスターのデザインを依頼され、国家はデザイナーを芸術家として認めた。そのことによって、ポスターは非常に多様性を持つようになったが、イラストレーションは中でも主なビジュアルコミュニケーションツールとして使用されていた。

この展覧会は現代デザインにフォーカスしていたので、構想する際にあった主な疑問は、ポーランドの若いグラフィックデザイナーは「POLISH SCHOOL OF POSTERS」についてどのように感じているかということだった。彼らは自らをそれと同一視しているか？あるいはそれを拒否しているか？の両面の意味をを展示に含めた。

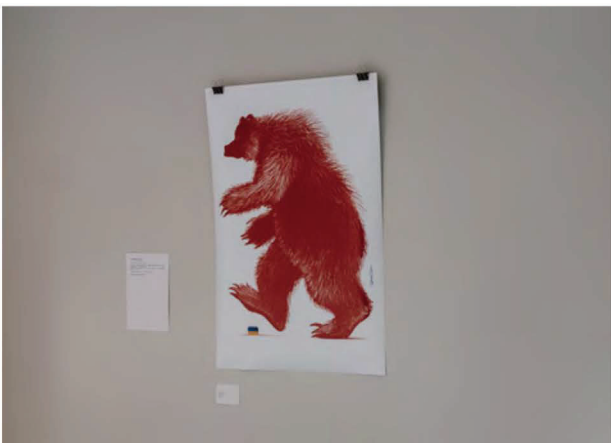


図-2 パベウ・ヨニツァによる「ロシアの熊」  
写真：パトリック・ヴィシニェフスキ

現代ポーランドのグラフィックデザイン活動にも実際に、「POLISH SCHOOL OF POSTERS」の影響を見ることができる。それは、グラフィックデザイナーたちが自発的にポスターを制作して、SNSを使い販売をしていることである。その良い例はパベウ・ヨニツァによる「ロシアの熊」と言うポスターである。このポスターはウクライナの戦争が始まった時、ポーランドとして隣国を助ける事が目的で作られた。たった3ヶ月の期間で、600万円が集まり、インターネットで人気のポスターになった（図-2）。

### 3. 展覧会のプロモーション用のポスター

展覧会のプロモーション用のポスターも、そのタイトル

にちなみ、「再解釈」に焦点を当てたものだった。展示した2枚のポスター（ホームワークの「ロボット物語」とヤクブ・カミンスキの「こんにちは、学校」）から単純な要素を取り出し、それらを繰り返しのパターンに構成した（図-3）。展覧会に足を踏み入れ展示室のポスターを見ると、以前に見たような親しみを感じられることを意図し制作した。ポスターも出展ポスターと同様にJIS B1サイズで印刷され、A4サイズで印刷されたフライヤーは芸術工学部の外でも配布された。



図-3 展覧会のプロモーションポスター

### 4. 終わりに

この展覧会での成果は、主に3つあげることができる。1つは、これまで経験したことのないグラフィックデザインのコンテキストだったため、生徒たちに新しい経験と知識を提供することができたこと。2つ目に、国際交流とダイバーシティにおける本校の有益な活動となった。最後に、このイベントは私たちの地域社会にも影響を与えたと言える。オープンキャンパスと重なったこともあり、初日から2日間で300名を超える来場者があった。

令和5年2月15日